

REPORT

アジアのトレードフェア(見本市)の中心地、香港の利用

世界的な金融危機の影響で、世界経済は急速に悪化しています。経済協力開発機構(OECD)の経済予測によれば、2009年には、日本、米国、欧州諸国といった先進国の実質経済成長率は、マイナスに転じると見られています(表1)。

表1 OECDによる経済予測

	2008年	2009年	2010年
日本	0.5	0.1	0.6
米国	1.4	0.9	1.6
欧州	1.0	0.6	1.2
中国	9.5	8.0	9.2
インド	7.0	7.3	8.3
ロシア	6.5	2.3	5.6
ブラジル	5.3	3.0	4.5

(出所) 経済協力開発機構資料よりふくおかフィナンシャルグループ作成

この世界的な不況を打破するカギは、中国が握っていると言われていています。世界的な景気減速を受け、輸出産業を中心に中小企業の倒産が相次いでいる中国ですが、それでも成長率8%以上というのは新興国BRICsの中でも依然として高い水準にあり、今後も世界経済の牽引役として期待されています。

しかしながら、言語や治安、商習慣の違いなどから、中国を敬遠している企業経営者も多く見られるのが現状です。

そこで今回は、香港のトレードフェア(以下、見本市)について概説し、1国2制度のもと、「中国であって中国でない」「中国市場へのゲートウェイ」と言われる香港の見本市を利用した中国・香港との貿易についてレポートいたします。

1. 香港の見本市

香港は、中国本土の東南に位置し、「世界の工場」と呼ばれる広州、深セン、東莞、珠海といった都市を有する広東省を背後地にもちます。そのため、中国市場への進出に必要な「情報」、「人材」、「金融」そして「物流」の集積地を形成しています。



また、香港は「美食天国」、「買物天国」としても知られており、それらを軸に「観光業」も大きな産業と位置づけられています。このように、ビジネスや観光など幅広い分野において重要な拠点である香港は、見本市産業が発展する要素を備えているといえます。

香港での見本市(展示会)開催件数は、中国ビジネスが注目されるにつれ、年々増加傾向にあります(表2)。海外からの参加者が07年には80万人を超え、香港居民を含めた見本市来場者数は500万人以上に上っています。また、見本市産業は、香港域内GDPの1.8%に相当する3.4兆円の規模(06年のデータ、1香港\$ 100円で換算)に達します。

表2 香港での展示会・会議

	2005年	2006年	2007年
展示会件数	55	78	108
展示会参加者数(海外から)	57万人	74万人	84万人
会議(Convention)件数	237	218	230
会議参加者数(海外から)	6.4万人	3.8万人	3.3万人

(出所) 香港旅遊發展局資料よりふくおかフィナンシャルグループ作成
海外からの参加者の約4割は中国本土から

香港は1997年の中国返還以前から、現在ほど経済市場が開放されていなかった中国本土と外国とを結ぶ重要な「中国のゲートウェイ」とし



香港コンベンション&エキシビジョンセンター

で発展してきた経緯があります。現在でも、英語が堪能な人材が豊富なことや、法制面など経済活動を行う環境が整っている点で、中国市場を目指す外国人にとって重要な拠点となっています。このことは、中国語以外でのコミュニケーションがほとんどとれない上海や広州といった中国の大都市との大きな違いです。これが、香港において見本市産業が発展し、しかもアジアでの見本市の中心地となっている理由のひとつです(表3)。

2. 見本市への参加

輸入、輸出のいずれであっても、中国へのビジネス展開は、日本の企業あるいは個人にとって、市場を日本国内に限定するよりも売上の拡大が期待できます。輸入であればより良い海外商品の発掘、輸出であれば自社商品を海外へ販売するためのルート作りが必要となります。このような時、国際見本市への参加が役立つことは少なくありません。

香港の見本市は、海外からの出展者や来場者を主たるターゲットとする「国際見本市」と、

香港内の出展者、来場者向けの「国内見本市」があります。輸出入ビジネスの拡大を目的に日本から参加される方は、「国際見本市」に参加することになります。

3. 見本市での商談

それでは見本市の活用についてご紹介いたします。

現在では、日本国内でも多くの見本市が開催されていますし、なかには海外からの出展者が大半を占めるようなものもあります。

一方、香港であれば最低でも3日程度、出展料が5万円程度は必要になるにもかかわらず、日本国内ではなく、海外の見本市に参加する利点は何なのでしょう。

第一に、海外の見本市では出展者、来場者ともに実利性のある商談が行えることです。日本で開催される見本市の多くは、具体的な商談まで至らず、名刺交換や挨拶だけにとどまることが多いですが、海外の見本市では、会場内で実際に商品を手に取り、価格を交渉する出展者、来場者の姿が多く見られます。特に、欧州やアメリカなどから来場するバイヤーは多額の渡航費用をかけており、必然的に商談にも力が入ります。

第二に、香港で開催される見本市では、気に入った商品が見つかり、価格的にも納得の行く提示を受けた場合、その足で実際に工場まで訪問し品質や生産体制の確認まで行うことが出来ることです。これが、香港の立地の良さといえます。「世界の工場」といわれる広東省とは陸続きで、ほとんどの主要都市とは、香港中心部

表3 香港の見本市産業が盛んな主な理由

1. 幕張メッセや東京ビッグサイトに匹敵する巨大コンベンション施設を有している(香港コンベンション&エキシビジョンセンター、アジア・ワールドエキスポ等)。
2. 世界各国とのアクセスが良好な国際ハブ空港を有している。
3. 国際観光地であり、ホテル等宿泊施設が充実している。またアフターコンベンション(コンベンション終了後の観光等)も充実している。
4. 治安が良好で、ビジネスの共通語である英語を理解する人材が豊富である。

からバスや電車を利用し2時間以内で行ける利点があります。一方、輸出を考えている日本企業にとっては、市場である現場を直接見ること、消費者の動向を調査することができるでしょう。

4. 最後に

今回は、香港を中心に説明しましたが、中国やアジア各国でも多くの見本市が開催されています。中国最大の見本市である「広州交易会」や、上海で開催される「華東交易会」は規模が大きく、来場者数も非常に多いことで有名です。

最近の見本市は、コンベンション施設の大型化により来場者は増加傾向にあります。しかし、逆に規模が大きすぎてブースを回りきれないということもよく聞きます。また、見本市の開催期間中には宿泊施設が極端に不足し、宿泊料金が何倍にも上昇することも珍しくありません。したがって、渡航前には現地の情報をしっかりと掴んでおくことも必要です。

ふくおかフィナンシャルグループの拠点がある大連、上海、香港の各駐在員事務所では、周辺都市を含めて見本市に関する各種情報を提供しております。海外見本市への参加が、皆様の



見本市会場の様子



見本市での商談の様子

新たなビジネス拡大へと繋がることを願っております。
(平松 毅一郎)

参考資料：香港投資推進局、香港貿易発展局の各種資料

表4 見本市情報の入手方法(一例)

① ふくおかフィナンシャルグループが発刊する調査月報「貿易お役立ち情報」の利用

「貿易お役立ち情報」では、3カ月ごとに情報を更新しており、香港だけでなく北京、大連、上海といった中国の主要都市や、タイ、ベトナムで開催される見本市情報を掲載しています。

<http://www.fukuoka-fg.com/tyosa/index.htm>

② 開催会場、主催者のウェブサイトでの検索

興味のある見本市については、開催会場のウェブサイトアクセスし、主催者情報、展示出品品目を確認します。開催会場のウェブサイトでは出展者概要や出展者数などの情報が入手出来るほか、「国際見本市」かどうかの確認もできます。

香港の主な見本市開催会場

香港コンベンション&エキシビションセンター <http://www.hkcec.com.hk/>

(Hong Kong Convention & Exhibition Centre)

アジア・ワールドエキスポ <http://www.asiaworld-expo.com/>

(Asia World Expo)

香港編

日本謙混凝土(香港)有限公司

日本謙混凝土(香港)有限公司は、日本ヒューム株式会社(本社：東京都港区)の最初の海外戦略拠点として1985年に設立されました(工場の操業開始は87年)。

設立当初の目的は、香港やマカオでのインフラ建設用部材(コンクリート杭等)の供給でしたが、その後90年代中頃からは香港でも高層団住住宅のプレキャスト化が進み、建築用部材(壁、床、階段等)の供給も手掛けるようになりました。

2001年には、工場を香港から広東省深セン市に移管するとともに、販売ターゲット(市場)を香港から日本へシフトさせました。現在の主な生産品目はプレキャストバルコニー、プレキャストコンクリートカーテンウォール、プレキャスト階段等で、大半を日本に輸出しています。

プレキャスト工法：コンクリートの建築物を建造する際には、一般に建築現場で建築物の大きさの型枠にコンクリートを流し込んで成型しますが、プレキャスト工法では、事前に成型されたコンクリート部材を工場で生産し、その部材を建設現場でつなぎ合わせます。

董事長(代表者)の井上克彦氏によれば、「中国に進出する日本企業の多くは、これまで単品の安い製品を中国で作ることのみに注力してきた。ところが当社では、日本ではコストが高く生産できない高付加価値製品を、中国の安い労働力を活用して生産しており、これが他社との差異化につながる。」とのことでした。お話の

とおり、深センにある工場内では、高級マンションなどに利用されるベランダやビルの外壁タイル張りを、一つ一つ丁寧に手作業で進めている工員の姿に目がとまりました。



窓枠付プレキャストカーテンウォール
(当社の製品は九州地方では、オフィスビルやホテルの外壁に利用されています。)

さらに、「新たな付加価値添加を行うため、現地のタイルメーカー、アルミサッシメーカーとタイアップし、プレキャスト窓枠付カーテンウォール等の新製品の生産を始めました。海外で生産したプレキャスト製品は、日本市場ではまだごく一部しかないので、賃金上昇という中国で生産する上での課題はありますが、今後も発展の余地は十分にある。」とのことでした。

曲がり角にさしかかっているといわれる中国ビジネスですが、柔軟な発想でビジネスを展開する当社の今後の成長が期待されます。

(平松 毅一郎)

PROFILE

現地法人名 / NIPPON HUME CONCRETE (HK) LTD.

日本謙混凝土(香港)有限公司

住所 / Room501 5th Floor, East Ocean Centre
98 Granville Road, Tsimshatsui, Kowloon, HongKong
TEL / 010 852 2366 6313
FAX / 010 852 2369 5152

親会社名 / 日本ヒューム株式会社

住所 / 東京都港区新橋5-33-11
TEL / 03 3433 4111(代表)
FAX / 03 3434 2320

90年代の香港における製造業の動き

- ・97年に中国に返還されるまでの香港は、インフラや住宅などの整備が盛んに行われ、「返還景気」といわれる史上最高の好景気となった。
- ・「返還景気」は、アジア通貨危機に端を発した不況により終焉し、それ以後、香港と中国本土との経済一体化・自由化の進展により、中国本土から押し寄せる安い製品に、香港内での生産活動は厳しさを増すことになった。
- ・製造業を中心に多くの企業が、労働力が豊富でコストの安い深セン市など中国本土に拠点を移す動きを加速させた。